

は し が き

本年度の研究報告の一つとして「研究報告第142号」を刊行いたします。

研究報告第135号では、「ごんぎつね」の読解において、教材と児童の実態、音読・朗読の方法のかねあいに留意しながら、音読・朗読指導システムを取り入れた授業改善の方途を探りました。その結果、次のような成果を見出すことができました。

- ア 文章を音声に表すことにより、正しく文章を読む力をつけることができる。
- イ 文章の音声化の工夫から、その内容を生き生きと想像し、理解する力を伸ばすことができる。
- ウ 内容理解をもとに、文章を音声で表現することで個々に豊かな読みを創り出すことができる。
- エ 一つ一つの言葉への意識を繊細にし、美しい日本語を表現することができるようになる。
- オ 学習への意欲を起こし、熱心に授業に取り組むようになる。

そこで、本報告書は、「かさこじぞう」、「白いぼうし」、「注文の多い料理店」、「平家物語」の各教材の読解においても、児童生徒の実態や教材と音読・朗読との関わりを重視し、“音読・朗読指導システム”を取り入れた授業の在り方を追究しました。なお、実践にあたっては音読・朗読の系統を考慮し、さらにプロソディー（リズム・ポーズ・アクセント・イントネーション等の音的要素・条件）について、特に意識しつつ、効果的に音読・朗読を生かす方法を求めています。

お読みいただき、授業構成・実践の際に少しでもお役に立てれば幸いに思います。

なお、“音読・朗読指導システム”とは、「正しく読む、確かに読む、豊かに読む」の『音読・朗読指導ステップ』、「音読・朗読の手法」、「音読評価」を組織し、各々を互いに関連させながら取り入れる方法です。

本報告書をまとめるに当たり、快く御協力をいただいた新潟市立東山の下小学校（前新潟市立大淵小学校） 疊 信子先生、新潟市立松浜小学校（前三条市立保内小学校） 河野静子先生、新潟市立小瀬小学校 真田節子先生、川西町立川西中学校 三林伸広先生に敬意と謝意を表すとともに、当該校の校長先生をはじめ諸先生方に心からお礼申し上げます。

平成 5 年 3 月

新潟県立教育センター

所長 大 澤 正